

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：日本語日本文学科

資格：教授

氏名：上田 和子

研究分野	研究内容のキーワード
日本語教育学	日本語教育学、教師教育、異文化間コミュニケーション
学位	最終学歴
文学修士, 文学士	大阪大学大学院 文学研究科 文化表現論専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. ゼミホームページの開設	2013年6月～現在	所属学生同士が、それぞれの活動を共有することを目的としてゼミホームページを開設している。主な内容は①ゼミの紹介②活動記録③先輩の活躍④交流会の記録⑤プロジェクトワーク、などである。これによって、卒業生も含めた日本語教育ゼミ生同士の情報共有が可能になっている。
2. 学びのネットワークづくり	2013年10月～現在	大日3年、4年それに大学院生をつなぐためのゼミ企画を実施している。①「先輩に聞く(卒業生)」②「先輩に聞く(就活を中心に)」③ゼミ合宿(3年、4年)」など。
3. 海外教育実習とフィールドリサーチ	2012年1月～2017年4月	日本語教育学を専攻する大学院修士課程在籍者を対象に、インターンシップとしてアメリカでの日本語教育実習(8週間)を実施している。この間、アメリカの大学で日本語授業を担当するとともに、各教育機関を訪問し現地における日本語教育や学習者の実態について調査を行う。実習中に得られたデータは、修士論文研究の一環として考察の対象とすることを目的としている。
4. 海外文化体験演習の実施	2011年10月～現在	大日・短日所属学生を対象に、本学アメリカ分校(MFWI)における英語研修および日本語教育関連機関訪問を含めた多文化理解プログラムを企画・提供している。
5. プロジェクトワーク	2010年9月～現在	「演習Ⅰ」(大日3年)後期の活動として調査型あるいは開発型のいずれかの形式で「プロジェクトワーク」を行っている。調査型は教材分析などのほか留学生の日本語学習に関する実態調査などを中心としている。開発型は調査に基づいた教材開発や交流会企画及び運営を中心としている。いずれもグループワークを行い、毎週のゼミは企画、計画の進捗状況を報告し、次の課題を明確にして取り組むという流れで行っている。学期の最終段階で各グループワークの成果発表会を行う。
6. フィールド調査	2010年10月～現在	演習Ⅰ(大日3年)では、日本語教育現場の状況を知るために日本語学校に赴き、留学生らへのインタビュー活動などを行っている。多文化理解、日本における留学生の状況を知ると同時に、「外国語として学ばれている日本語」を体験的に学ぶことを目的としている。また交流会の企画運営を学生が自主的に行えるよう環境整備を行っている。
7. 留学生との交流会	2010年07月～現在	「演習Ⅰ」(大日3年)および「日本語教育学入門」(大日1年)に、本学短期留学生らを授業に招き、グループワークを中心とした交流会を行っている。留学生からのインタビュー(大学生生活、将来設計、若者言葉など)に答える形式を主としている。世界各国からの留学生がどのように日本語を学んでいるか、何に関心をいただいているかなどについて、直接的なコミュニケーションを通して学ぶことを目的としている。
8. ビジターセッション	2010年05月～現在	「日本語教育学入門」「異文化間コミュニケーション」(大学1年生)(2015～。旧カリキュラムでは「日本語教育学A」「日本語教育学B」)において、①日本語学習者(留学生など)②日本語教員(海外赴任経験者)③外国人英語教員(日本でのALT経験者)らを教室に招き、それぞれの発表から日本語学習や日本語教授の経験を受講生と共有することを目的とした授業を行っている。参加者数によっては、グループワークを行うこともある。
9. 学外教育実習	2009年08月～現在	日本語教員資格取得のためのプログラムの一環として、国内と海外で希望者を対象に教育実習を行っている。実習校での授業を行う前に、学内で約2週間ほど、教案作成や模擬授業を含む準備を集中的に行っている。2017年度からは「日本語インターンシップ」という科目になった。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 日本語能力試験(JLPT) 試験小委員	2009年～2013年	日本語学習者対象の「日本語能力試験(JLPT)(国際交流基金・財団法人日本国際教育支援協会)」のテキスト取

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		集および作題（読解）の担当。
4 その他		
1. 「準デジタル・アーキビスト」資格認定	2018年1月28日	NPO法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構による研修を受け、「準デジタル・アーキビスト」の認定を受けた。
2. 「日本教育工学会FDワークショップ」ファシリテータ合格認定証	2015年04月20日～現在	2014年度日本教育工学会FDセミナー「大学授業デザインの方法ー1コマの授業からシラバスまでー」ファシリテータ講座を受講し、レポート審査の結果、合格の判定を受けた。
3. 「日本教育工学会FDセミナー」合格認定証明	2014年04月～現在	2013年度日本教育工学会FDセミナー「大学授業デザインの方法ー1コマの授業からシラバスまでー」を受講し、合格の判定を受けた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. ACTFL Official OPI Tester	1993年12月	ACTFL(American Council in the Teaching of Foreign Language Oral Proficiency Interview Tester. アメリカ外国語協会認定インタビューによる外国語口頭運用能力判定試験官資格
2. 日本語教育能力検定試験	1992年03月	合格
3. 高等学校1級	1984年03月	国語科
4. 中学校1級教員免許	1980年03月	国語科
5. 高等学校2級教員免許	1980年03月	国語科
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 外国人のための看護・介護用語集 日本語でケアナビ 英語版	共	2009年01月	株式会社 凡人社	関西国際センター「日本語でケアナビ」開発チームインターネットサイト「日本語でケアナビ」に基づいた和英・英和学習辞典。基本的な専門用語と日常的に職場で用いる表現を含む。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 2019年度日本語教育関連活動の報告	共	2020年03月20日	『武庫川国文』第88号 武庫川女子大学国文学会	野畑理佳との共著。2019年度本学日本語日文学科における日本語教育関連活動のまとめ。
2. 教師の実践知を探るー「教科書」をテーマにしたナラティブ的探求ー	単	2020年03月8日	『日本語日文学論叢』第15号 武庫川女子大学大学院文学研究科日本語日文学専攻	一人の日本語教師が職業的な成長を遂げる過程において、「教科書」がどのような働きを持っていたのか、をセルフナラティブの手法で描く。
3. 2018年度日本語教育関連活動の報告	共	2019年3月	『武庫川国文』第86号	野畑理佳との共著。2018年度本学日本語日文学科における日本語教育関連活動のまとめ。
4. 日本語教育研究における「気づき」をめぐりー考察	単	2019年3月	『日本語日文学論叢』第14号	日本語教育研究の文脈において用いられる「気づき」という表現がもつ意味を、背景となる研究理論の異なりにしたがって整理し分析する。
5. 日本語教員養成プログラムの検証ー教育実習記述の分析からー(査読付)	単	2019年3月	『武庫川女子大学紀要(人文・社会)』	本学日本語日文学科における約10年間の日本語教育実習の変遷を整理し、その実践を評価したうえで問題提起する。
6. 大学における日本語教員の【養成】の【態度】涵養を考えるー言語学習ヒストリーの視点からー	単	2019年11月1日	『武庫川国文』第87号 武庫川女子大学国文学会	大学における日本語教員養成プログラムの役割を、卒業論文のテーマを題材にして教員【養成】の【態度】涵養の視点から分析する。
7. 日本語教育人材養成と成人学習理論ー『日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)』を巡って	単	2018年11月	『武庫川国文』第85号	2018年3月に出された『日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)』(文化庁)をもとに、日本語教育人材育成に関する過去30年を振り返り問題点を指摘する。
8. 日本語母語話者は異文化交流会でどのように日本語を学ぶか(査読付)	単	2017年7月	第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 大会論文集編集委員会【編】	日本語学習者と日本語母語話者の交流会という接触場面における母語話者の言語習得に着目し記述する。
9. 質的データ分析プロセスにおける	共	2017年3月10日	武庫川女子大学大学院	SCAT分析の実践を通じた質的データ分析とその過程

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
協働的まなび—SCAT分析の事例から—		日	文学研究科 日本語日本文学専攻	に見る参加者それぞれにおける学びを記述する。中塚理子、尾崎有以と共著。
10. 日本語教育実習の場を構成する人々とその学び（査読付）	共	2016年11月	国際日本語日本研究シンポジウム 大会論文集編集委員会【編】	グローバル人材育成の実践例に国内海外での日本語教員養成の教育実習があげられる。教材研究、授業計画、授業実践などの活動は、教師となるために欠かせない訓練であるが、実習の場は事前指導を行う送り出し側の教員、実習授業の指導を行う受け入れ側の教員、そして実習生の3者によって構成されており、それぞれに相互的、多角的な学びが生起している。それらはどのような知識および実践知であるのか。
11. 日本語学習のためのeラーニングサイトと教師のかかわり方（査読付）	共	2012年9月	『韓国日本語文化学会』 第22輯	インターネット普及と言語教育現場との関わりを、三つのサイト開発を事例に述べる。技術開発の側面だけでなく、教育プログラムに直接かかわる教師の役割について検討する。 キーワード：ウェブサイト開発、eラーニング、日本語学習、ターゲットユーザー、教師の役割 田中哲哉、川嶋恵子との共著
12. ブログによるプロジェクト評価（査読付）	単	2009年03月	『国際交流基金日本語教育紀要』第5号	日本語学習用のサイト開発として行われた実践を、それに参画した人々にとってどのような経験を積み重ねてきたかを、並行して公開されたブログを通じて分析し、プログラム評価の視点から検討する。
13. 専門日本語研修と関西国際センターの10年	共	2009年01月	『専門日本語教育研究』専門日本語教育研究会	三浦多佳史、羽太園、矢澤理子との
14. インターネットサイトによる日本語教育支援—「日本語でケアナビ」の開発と一般公開をとして—（査読付）	共	2008年03月	『国際交流基金日本語教育紀要』第4号	田中哲哉、嶋本圭子、前田純子、角南北斗との
15. 「初級からの専門日本語教育」への視点—関西国際センターの実践研究から—（査読付）	共	2008年03月	『国際交流基金日本語教育紀要』	羽太園との
16. 「看護・介護のための日本語教育支援データベース」開発調査をめぐって（査読付）	単	2007年3月	『国際交流基金日本語教育紀要』第3号	外国人のケアギバーを養成するために必要な日本語教育データベースの作成について。
17. 年少者を対象としたインターネット日本語試験「すしテスト」開発報告（査読付）	共	2005年3月	『国際交流基金日本語教育紀要』第1号	廣利正代、押尾和美、歳森真紀との
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 日本語学習者のためのeラーニングサイト開発	共	2012年5月12日	韓国日本語文化学会、韓国外国語大学、ソウル基調講演として	インターネット普及に伴い、第二言語教育の方法として様々なツールが開発されている。その過程において、外国語教師はどのような役割を果たすことができるのか。三つのサイト開発を事例として、多角的に検討する。 パネルラーは、他に田中哲哉、川嶋恵子。
2. インターネットサイト開発と日本語学習支援	単	2012年4月30日	香川にほんごネット（香川国際交流会館 アイパル香川）にて、「平成24年度香川にほんごネット講演会」	地域で活躍する日本語教育従事者らを対象に、1）近年の日本語教育の動向を概観し、2）ウェブサイトを開発現場にどのように活用するか、をテーマに講演した。
3. 日本語教育実習にある学び	単	2009年11月	武庫川国文学会 シンポジウム「日本語教育実習の姓か：多文化共生時代に求められる人材への手がかり」	国内、国外で実施している日本語教育実習の実践例を紹介し、多文化共生時代に求められる人材像を探る。
4. 日本語教育学会 第8回研究集会（基調講演）	単	2008年11月	日本語教育学会 研究集会 於：高知大学	「日本語でケアナビ」開発と日本語教育
5. 徳島県自治研修	単	2007年09月	於：徳島大学	国際化講座～徳島県の国際化を進めるために～
6. 第一回学習者の自律を重んじた日本語活動・実践研究	単	2006年09月	於：桜美林大学	自律学習—関西国際センターの実践—
7. 初級からの日本語スピーチ；だが、いつ、どうやって	単	2005年11月	於：フィリピン日本語教育研究	『初級からのスピーチ』を題材に、コミュニケーションアプローチを応用した成人学習者用の授業展開の紹介。
8. 目的別日本語研修プログラム開発	単	2005年11月	於：フィリピン日本語教育研究会	国際交流基金関西国際センターにおける「外交官・公務員日本語教育研修プログラム」をもとに、成人学習者対象の日本語教育実践の紹介。
2. 学会発表				
1. 日本語母語話者は異文化交流会でどのように日本語を学ぶか	単	2016年11月	第11回国際日本語教育日本研究シンポジウム 於：香港公開大学	日本語話者が日本語学習者と接触する場面でどのような「言語への気づき」が生まれているか。発表者の実践記録をもとに交流活動の果たす役割を検証する。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
2. 異文化間教育学会	共	2015年06月07日	異文化間教育学会第36回大会（於：千葉大学） ケース/パネル発表（指定討論者・ディスカッサント）	グローバル時代の日本語教育事情と教師の立ち位置 —米国・韓国を中心に— 倉地暁美（広島大学）、中山亜紀子（佐賀大学）、加藤鈴子（九州工業大学）と
3. 日本語教育実習の場を構成する人々とその学び	共	2014年11月15日発表予定	2014年第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム—変化する国際社会における課題と可能性—	グローバル人材育成の実践例に国内海外での日本語教員養成の教育実習があげられる。教材研究、授業計画、授業実践などの活動は、教師となるために欠かせない訓練であるが、実習の場は事前指導を行う送り出し側の教員、実習授業の指導を行う受け入れ側の教員、そして実習生の3者によって構成されており、それぞれに相互的、多角的な学びが生起している。それらはどのような知識および実践知であるのか。
4. Nihongo de Care-Navi -A multi-lingual Internet site for Care-workers-	単	2012年2月25日	The Spokane Regional ESL Conference 2012	1) General information on the JSL today in Japan and overseas. 2) A great variety of learners and teacher's roles. 3) Nihongo de Care-Navi: as a case of web site producing project: http://eng.nihongodecarenavi.jp/ 4) How and what can we-language teachers- contribute in the society?
5. 日本語学習者のためのeラーニングサイト開発	共	2010年07月	2010世界日本語教育大会 於：台湾政治大学	田中哲哉、熊野七絵、磯村一弘（パネルディスカッションのパネラー） ケアワーカーのための日本語教育サイト、マンガ・アニメサイト、日本語教師支援のためのポータルサイト、そして、テレビ放送された日本語教育教材の4つを例にして、eラーニングサイト開発における日本語教育の視点からの問題点について、パネルディスカッションを行う。
6. 「日本語でケアナビ」と実践的コミュニティ	共	2008年3月	国際交流基金関西国際センター 日本語教育シンポジウム「ひらく・つなぐ・つくる 日本語教育の現場」	Joy Dever, 角南北斗、原田マリアフェ、石井恵理子、田中哲也と（パネルディスカッションのパネラー） シンポジウムにおけるパネルディスカッションで、パネラーの一人として「日本語でケアナビ」インターネットサイト開発が、さまざまな領域の専門家らとの連携によって実行され、それぞれのノウハウが相互的に作用しあって新しい知的創出が行われていたことの報告。
7. インターネットサイト開発におけるプログラム評価	共	2008年11月	第8回国際日本語教育・日本研究シンポジウムアジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究 於：香港大学	角南北斗、宮副ウォン裕子とシンポジウムにおけるフォーラムでの共同発表。特にプログラム評価について。
8. 「日本語でケアナビ」開発と多角的協働	共	2008年07月	世界日本語教育国際大会 於：釜山外国語大学	Joy Deveraと
9. 「利用者の日本語を意識した「日本語でケアナビ」の検索機能」	共	2008年07月	世界日本語教育国際大会 於：釜山外国語大学	角南北斗と
10. 日本語学習支援の領域と視点—インターネットサイト「日本語でケアナビ」開発を事例として	共	2008年03月	日本語教育学会 第11回研究集会関西地区 於：立命館大学	田中哲哉、角南北斗、前田純子と
11. 「日本語でケアナビ」：ケア従事者のための日本語学習支援サイトの開発	共	2007年10月	日本語教育学会 於：龍谷大学	田中哲也、角南北斗、嶋本圭子と新規開発サイトのデモンストレーション
12. 開かれた研修」のための装置の実践	共	2004年07月	日本語教育学会	羽太園
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. ラウンドテーブル 2017 夏	共	2017年8月5日	学びを培う教師コミュニティ研究会	「実践のプロセスを協働で振り返る—語る・聴くから省察へ—」にコーディネータとして参加 於：武庫川女子大学
2. ラウンドテーブル 2017 春	共	2017年3月11日	学びを培う教師コミュニティ研究会主催	「実践のプロセスを協働で振り返る—語る・聴くから省察へ—」にファシリテータとして参加 於：玉川大学
3. ラウンドテーブル 2017 上海	共	2017年11月4日	華東師範大学外国語学	「実践のプロセスを協働で振り返る—語る・聴くか

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
4. ラウンドテーブル 2016 春	共	2016年3月5日	院日本語学科、学びを培う教師コミュニティ研究会共催 学びを培う教師コミュニティ研究会	「実践のプロセスを協働で振り返る一語る・聴くから省察へ」にファシリテータとして参加 於：華東師範大学
5. ラウンドテーブル 2016 上海	共	2016年10月29日	学びを培う教師コミュニティ研究会	「実践のプロセスを協働で振り返る一語る・聴くから省察へ」にファシリテータとして参加 於：華東師範大学
6. ラウンドテーブル 2015 北京	共	2015年12月19日	学びを培う教師コミュニティ研究会	「実践のプロセスを協働で振り返る一語る・聴くから省察へ」にスピーカーとして参加 於：北京外国語大学
7. 平成24年度海外文化体験演習報告書	共	2013年7月	武庫川女子大学 日本語日文学科	2013年2月～3月にかけてMFWIで行われた英語研修と日本語教育に関する演習の報告書
8. Cross-cultural understanding based on teaching experiences of teaching Japanese to non-Japanese.	単	2013年3月14日	Japanese Cultural Center, MFWI	General information of *What language is Japanese? *Questions from the learners *Teacher education (Japanese language pedagogy) *Japanese language teaching (overseas) JSL/JFL/JSP
9. 平成23年海外文化体験演習報告書	共	2012年7月	武庫川女子大学 日本語日文学科	2012年2月～3月にかけてMFWIで行われた英語研修と日本語教育に関する演習の報告書
10. 交流活動の目指すもの「リソース」への気づきの場として	単	2012年3月	『日本語教育レポート』第10号 武庫川女子大学日本語日文学科 日本語教育研究会	留学生との交流会における参加者の役割について
11. 日本語教師の「日本語力」－「やさしい日本語」からの示唆－	単	2010年3月	『日本語教育レポート』第8号 武庫川女子大学日本語日文学科 日本語教育研究会	「やさしい日本語」をめぐる
12. 日本語でケアナビ日本語学習者のための多言語ウェブサイト	単	2010年10月	於：堺市日本語教育ボランティアを支援するための研修講座 2010年度第三回（大阪府立大学）	日本語教育支援サイト開発と教師の役割について
13. A Lecture for Indonesian & Japanese Students of an international exchange program.	単	2010年	East Asian Students Encounter, 2010 at Kwansai Gakuin University 関西学院大学インドネシアセミナー	インドネシア人を対象とした日本語教育支援サイト開発の実践報告。 聴衆はインドネシア人留学生ら。
14. Eラーニング開発：「日本語でケアナビ」日本語教育支援ウェブサイト（多言語版：日本語・英語・インドネシア語）開発	共	2008年	国際交流基金関西国際センター	日本語教育支援多言語サイトの開発と公開および、そのプロジェクトリーダー
15. 「こちら「日本語でケアナビ」開発室」ブログ公開		2007年	国際交流基金関西国際センター	多言語日本語教育支援サイト開発の実践記録としてのブログの作成と公開、およびそのプロジェクトリーダー。
16. 平成19年度国際交流基金理事長特別表彰「ヒット・プログラム賞」		2007年	国際交流基金	受賞理由：社会的ニーズに対応した視点で日本語支援ツールを地道な努力と創意工夫をで開発し、高い反響を得、日本語教育事業の可能性を広げた。
17. 報告書：『看護・介護のための日本語教育支援 データベース開発調査報告書』『日本語でケアナビ』の元である看護・介護関連日本語語彙データベースの開発について	単	2006年	国際交流基金関西国際センター	専門職のための日本語教育支援サイト開発のためのデータベース作りに関する実践報告書。
18. Eラーニング開発：「日本語でケアナビ」日本語教育支援ウェブサイト（日英版）開発・公開	共	2006年	国際交流基金関西国際センター	専門職のための日本語教育支援サイトの開発と公開。
19. Eラーニング開発：「看護・介護のための日本語支援データベース」作成	共	2005年	国際交流基金関西国際センター	専門職のための日本語教育支援サイト開発のためのデータベース作成
20. 報告書：『研究者・大学院生日本語研修追跡調査報告書[平成9～14年度研究者日本語研修][平成15年度研究者/大学院生日本語研修（8ヶ月）]』	単	2005年	国際交流基金関西国際センター	専門日本語研修参加者の動向に関する調査報告書
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年4月2018年3月	武庫川国文学会 学会長
2. 2012年4月2017年3月	武庫川国文学会 副会長